

# 令和3年度第1回 成田市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

## 1 開催日時

令和3年11月17日（水） 午前10時～午前11時45分

## 2 開催場所

成田市花崎町760番地  
成田市役所3階 第2応接室

## 3 出席者

（委員）

関根座長、宇野澤副座長、小川委員、鈴木委員、高梨委員、山本委員、青木委員、  
榎森委員、宮崎委員、吉高委員、横山委員

（事務局）

企画政策部 木下部長  
企画政策課 篠塚課長、平野課長補佐、木内係長、元木主査、中村副主査

## 4 議事（要旨）

○第2期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

成田市人口ビジョンの改訂及び第2期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について事務局より説明

## 5 質疑等

### （1）第2期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

□ 第1期の計画では各事業の内容についても記載されていたが、第2期計画では事業名のみの記載となっており、その取扱いはどうなっているのか。

⇒ 企業版ふるさと納税を例にすると、第1期の計画では新規事業として具体的な施策を記載することが求められていたが、第2期では具体的な施策は毎年度の見直しの中で組み込めば構わないとされている。そのため、新たな取組が追加された場合は、毎年度行う見直しの中で取り入れていくこととする。

□ 市の日本人人口は2017年以降減少しており、外国人人口は増えている。また、合計特殊出生率も現状は1.18という低い状況にあるが、市が推計するとおり人口は増えるのか。

⇒ 転出超過数の上位地域として、印西市が多い理由は千葉ニュータウンの影響があると

考えられる。また、次の大田区は空港関連企業の転勤によるものと考えられる。転出抑制に向けた具体的な施策については、現状の計画には組み込んでいないが、引き続き効果のある施策について調査を行い、事業化されれば計画に取り入れていく。

また、人口の減少については、住環境の不足が主な原因であると考えられ、（仮称）吉倉駅を中心とした吉倉地区の新たなまちづくりなどにより新たな住環境を整備していきたいと考えている。

□ 合計特殊出生率の上昇は、晩婚化だけでなく就業形態の変化など様々な要因が考えられるため難しい。また、2017年と2019年に合計特殊出生率が下がっているのはどういった理由が考えられるか

⇒ 様々な要因があるので、事務局でも確かな理由は分析しきれていないが、想定しているものとしては、若い世代の夫婦が住宅購入を考えたとき、本市には物件が無いとため、印西市などに流れてしまうのではないかと考えている。

□ ニュータウンの人口構成は30年前と随分変わっており、資産を継承していくのが戸建てだと難しく、子育て世代の人口が減っている。一方、公津の杜では人口が増えており、成田は地域的な特性が相当あるのだと感じた。そういったことから、新しい住宅地開発だけでなく、既存の住宅地にも資産が継承されていくような仕組みを考えていくことも大事だと考える。賃貸の住宅に関しては、世代が変わっても転入者を受け入れるキャパシティとしてはよいのかなと考える。

それとインターネットの時代になっているのはしみじみ感じていて、住む地域の選択に迷っている方も、市のホームページ等から色々な情報を収集しているので、積極的なPRというのは非常に重要であると考え。そこで、セキュリティポリシーの問題もあるかもしれないが、ホームページを閲覧した人がその後どこかのページにアクセスしたのかを分析することも非常に有効なのではないかと考える。

⇒ まず人口について、成田市は10代後半から20代前半で転入増となり、30代の転出が多い傾向がある。2010-2015年と2005-2010年の年齢階級別人口移動を比較した際に、注目すべきは30代半ば以降の年齢増がこれまでは社会増となっていたが、直近では0若しくは社会減になっていることであり、このことが直近の人口が減少している原因ではないかと考えている。今後、（仮称）吉倉駅を中心としたまちづくりや不動産岡地区の区画整理による新たな住環境の整備、また、ニュータウン地区の空き家になっている古い住宅などをどう再生するかというのが大きなテーマとなってくる。

また、インターネットでの広告について、成田をPRする動画を例年30分程度のもので作成しているが、そもそも30分は長いという意見があった。YouTubeを見るにしても5分だと長く、TikTokの動画配信は30秒くらいなので、その辺も工夫しながら若い人の目に留まるようなコンテンツを考えていく必要があると考えている。

□ 現在は、コロナ禍で状況が違うが、少し前は労働不足、働き手不足というのが、空港でも課題になっていた。住む場所とセットで魅力的なまちに住みたいという若い世代の想いがある、成田空港と羽田空港で働く内容は同じで、ではどこに住みたいのかと考えたときに、同じ仕事をするなら都会の方が良いとなってしまう。そういう視点で、空港とまちづくりはセットで考えないといけないなと思っていた。そのような中、これからの時代のキーワードとして、デジタルとグリーンというのが重要なポイントになると思うが、今回の計画ではデジタルとグリーンについて、どういったことを取り組んでいく予定か。

⇒ デジタルについては、キャッシュレス環境を推進していくこととしている。グリーンについては、来年度、環境部において環境基本計画の見直しを予定しており、その中でゼロカーボンに向けた取組を具体化していく予定であるため、そういったところも毎年の見直しの中で随時取り入れていくこととしたい。

□ オリンピックレガシーの活用促進について、成田のストロングポイントは成田空港や成田山新勝寺があることだと思うが、そう考えると産学官連携という中でのスポーツツーリズムは成田市が唯一できるものだと考えている。例えば、海外からきた外国人が成田山でパラスポーツを体験できるような新しい切り口をやってみるのも一つの考えかなど考える。

□ 市の人口がここ数年、減少しているということだが、成田に住んでいて単身向けアパートが増えていると感じている。住民票を置かず成田市に住んでいる方はどの程度いるのか。

⇒ 住民票を移していないと数値はわからないが、国勢調査の確報値と住民基本台帳の差によって一定数は把握できるかもしれない。

□ 数値で現れるほど悲観的に減っていないのではないかと感じていて、単身向けのアパートは非常に増えている印象ですので、それだけの需要があるのではないかと感じている。

⇒ 単身者の方もそうですが、外国人の方も住民票を置かない人が多いのではないかと考えられる。

□ 外国人はリーダーの家に 5 人から 10 人程度で一緒に住んでいるのが実態なので、住民登録していない可能性はあると感じる。また、計画の中で企業誘致とあるが、連絡をいただければ、全国のネットワークを使った情報提供など協力ができる。

- それと今後のスケジュールを教えてください。
- ⇒ 今後、いただいた意見をもとに必要な修正を加えながら、12月議会において報告後、年末から年始にかけてパブリックコメントを実施する予定である。その後、パブリックコメントでの意見を反映させた上で、改めて今年度中に会議に諮りたいと考えている。
- ふるさと納税についてですが、金額はどの程度か。
- ⇒ 具体的な金額までは把握していないが、昨年度までは他市に寄付をする方が多かったが、今年度は本市への寄付額が増えているという報告を受けている。
- 人口について、成田はこれまで右肩上がりが増えてきたところだが、ここ1、2年は減少している。これは羽田空港関連で大田区に移ったことや、空港がより安全なものとなり空港警備隊の方が削減されたことなど、様々な要因があるが、もう一つに、成田は都市計画の中で農地が多く、そういう意味では、印西市は平らな土地でまだまだ住宅などもできる条件がある中で、成田は市街化区域が限定されているため住居系を提供することが難しいところがある。
- 例えば、子育て支援でいえば、成田市は他市に比べて劣っているということは全くなく、むしろ成田の方が進んでいるというのが多いので、今後、人口減少の要因の分析を進める中で、これからの施策を進めていきたいと考えている。
- そういった意味で、吉倉地区や不動ヶ岡地区の区画整理も順調に進んでいくのかなと思っている。また、成田はマンション需要が非常に強いという話も聞いているので、今はコロナという状況下ではあるが、これからの分析の中で政策を進めていきたいと考えている。